石巻支所復興だより
復興庁 Reconstruction Agency 新たなステージ　復興・創生へ
令和２年３月12日 No.5
宮城復興局　石巻支所

東日本大震災から9年目の追悼

震災から9年目の3月11日、石巻地方でも、鎮魂と慰霊の祈りを捧げる多くの方々の姿が見られました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、大部分の市町が自由献花式としたところですが、東松島市では、時間短縮、座席間隔を広げる等の対策を行った上で、追悼式典が開催されました。渥美巖市長は、式辞の中で、「この震災を風化させないことが被災地としては大変重要であり、新型コロナウイルスの感染対策を十分に行い実施することを決定しました。国の当初の復興創生期間は残すところあと1年になり、ハード面では来年度までに事業を完結するとともに、ソフト面では、被災者に寄り添った心の復興とコミュニティの再生に力点を置いた施策を行っていきたい」と語りました。

東松島市市民体育館での式典会場

また、遺族を代表して震災で夫を亡くされた東松島市の雫石かほるさんが、「各地で復興事業が進んでんでいる一方、今も心に不安を抱える方に一日も早く落ち着いた生活ができることを願います。お世話になった皆様に少しでもお役に立てばと思い、あおい地区の見守り部隊で高齢者や一人世帯の方の見守り活動を行っています。これからも地区の皆様と、いろいろな行事を通して関わり合いを持っていきたいと思います」と語りました。

女川町総合体育館での献花会場

石巻地方の市町が主催した今回の追悼行事には、およそ3,100名 の方々が献花を行われました。なお、宮城復興局からは英局長が東松島市の式典に出席するとともに石巻市で献花を、石巻支所長が女川町で献花を行いました。

石巻市河北総合センターでの献花会場

石巻市南浜町　がんばろう！石巻　3600 個の灯ろう